

臨床検査の豆知識

2022.11 一部改正 Ver14.1

旭ろうさい病院 中央検査部作成



基準値は「正常な人の95%に当てはまる値」です。

正常な人でも5%は基準値に当てはまりません。

何種類もの検査項目のうち、1項目だけを見て正常であるか異常であるかを自分で判断するのは危険です。

病気を診断するにはいくつもの検査データを合わせて医師が総合的に判断します。

検査名	参考基準 (単位省略)			何をしらべているのか?
	性別	下限	上限	
凝固検査				
PT(INR)				血液が固まるまでの時間や凝固因子の量を測定し、出血を止める反応の状態を推測します。 ワーファリンなど血液を固まりにくくする薬の効果を判断する場合にも有用です。
PT(sec)		11.0	13.0	
PT(%)		80.0	100.0	
APTT		27.0	38.0	
フィブリノゲン		200	400	
FDP		5以下		体のどこかに血栓ができていないかを推測します。 血栓がある場合などに高くなります。
Dダイマー		1以下		
CBC (血算) ・白血球5分類検査				
WBC(白血球数)	男	39	98	生体防御機能や免疫機能に働く細胞。 感染症や白血病などの血液疾患で高値となります。
	女	35	91	
RBC(赤血球数)	男	427	570	体に酸素を運ぶ細胞。 貧血や多血症を推測します。
	女	376	500	
Hb(血色素量)	男	13.5	17.6	
	女	11.3	15.2	
Ht(ヘマトクリット)	男	39.8	51.8	
	女	33.4	44.9	
MCV		79.0	101.6	RBC、Hb、Htの結果から計算し、赤血球1個あたりの大きさや血色素量をしらべます。おおまかな貧血の鑑別ができ、原因の推測や治療方針の決定をします。
MCH		26.3	34.6	
MCHC		30.7	36.6	
RDW		11.4	14.5	
PLT(血小板)	男	13.1	36.2	止血する役割を持つ細胞。 出血の原因が血小板の量的なものか、質的なものかを推測します。
	女	13.0	36.9	
BASO(好塩基球)		0.0	3.0	白血球は5種類に分類されます。 どの白血球が増減しているかをしらべ、細菌感染症、ウイルス感染症、アレルギー反応、血液疾患などを推測します。
EOS(好酸球)		0.0	10.0	
NEUTRO(好中球)		27.0	80.0	
LYMP(リンパ球)		19.0	59.0	
MONO(単球)		0.0	12.0	

生化学・免疫検査				
TP(総蛋白) Alb(アルブミン) A/G比		6.7 4.0 1.49	8.3 5.0 2.51	蛋白は体の働きに重要な役割をし、肝臓などの機能障害や低栄養で低くなります。 Albは肝臓でつくられ、血液中で最も多い蛋白質。 TPと一緒に検査して、栄養状態を推測します。
T.Bil(総ビリルビン) D.Bil(直接ビリルビン)		0.3 0.0	1.2 0.2	赤血球(ヘモグロビン)が壊れてできる色素。 黄疸の程度、肝臓・胆道系の疾患の有無や程度を推測します。
ALP (アルカリホスファターゼ)		38	113	肝臓や胆道系、骨などに多く含まれる酵素。 肝臓・胆道系・骨の疾患の有無や程度を推測します。
LAP (ロイシンアミノペプチターゼ)		20	60	肝臓や腎臓、腸などに多く含まれる酵素。 肝臓・胆道系・腎臓の疾患の有無や程度を推測します。
CHE (コリンエステラーゼ)		214	466	肝臓で作られ、肝臓や膵臓、心臓に多く含まれる酵素。 肝臓の機能障害や低栄養で低くなります。
CPK (クレアチンキナーゼ)	男 女	62 45	287 163	心臓や筋肉などに多く含まれる酵素。 心臓や筋肉の障害の程度などを推測します。
CK-MB		25以下		心臓に多く含まれ、心筋梗塞の推測に有用です。
LDH (乳酸デヒドロゲナーゼ)		119	229	肝臓や心臓、腎臓、筋肉、血液などに多く含まれる酵素。 これらの臓器や血液に障害があると高くなります。
AST(GOT)		13	33	肝臓や心臓、筋肉などに多く含まれる酵素。 これらの臓器に障害があると高くなります。
ALT(GPT)	男 女	6 6	30 27	肝臓に多く含まれる酵素。 ASTの結果と合わせて肝臓の障害の程度を推測します。
γ-GTP		10	47	蛋白質を分解する酵素の一つ。 肝臓や胆道系の疾患を推測します。 アルコールの影響で高値になりやすいため、飲酒による肝臓の障害の程度の推測にも有用です。
Amy (アミラーゼ)		37	125	膵臓や唾液腺に多く含まれる消化酵素。 膵臓や腸、肝臓、腎臓の疾患を推測します。
T-Chol (総コレステロール)		128	219	細胞やホルモンなどを作るために必要な成分。 高いと動脈硬化の進行が早まり、心筋梗塞や脳梗塞などが起こりやすくなります。
TG (中性脂肪)		30	149	過剰に摂られたエネルギーはTGとして貯蔵されます。 その量が多すぎると皮下脂肪や肝臓に蓄えられ、内臓脂肪や脂肪肝の原因となります。
HDL-c (HDLコレステロール)		40	96	コレステロールが血管壁に沈着するのを防ぐ働きをするため、善玉コレステロールと呼ばれます。 低いとコレステロールの沈着が増えるため、動脈硬化の進行が早まります。
LDL-c (LDLコレステロール)		70	139	末梢にコレステロールを運ぶ働きをするため、悪玉コレステロールと呼ばれています。 高いと冠動脈疾患などが起こりやすくなります。

Na(ナトリウム) K(カリウム) Cl(クロール)		138 3.6 99	146 4.9 109	ナトリウムは体の水分調節を、カリウムは筋肉や神経の働きを、クロールは体内の各組織に酸素を運ぶ働きをします。脱水や下痢、腎臓機能の評価などに有用です。
Ca(カルシウム)		8.7	10.3	骨や歯の構成成分。副甲状腺ホルモンによって血液中の濃度が調節され、血液の凝固や神経刺激の伝達などに働きます。
IP(無機リン)		2.5	4.7	カルシウムとともに骨の重要な構成成分。腎臓で調節されて排泄されるため、腎臓の機能低下で増加します。
BUN (尿素窒素)		8.0	22.0	蛋白質が分解されてできる老廃物。腎臓から尿中に排泄されるため、腎臓の機能が低下すると高くなります。
Cre (クレアチニン)	男 女	0.55 0.35	1.14 0.74	筋肉にあるクレアチンの代謝産物。腎臓から尿中に排泄されるため、腎臓の機能が低下すると高くなります。人工透析の指標にも用いられます。
eGFR (糸球体濾過量)		60以上		腎臓が老廃物を排泄できる能力を調べる検査。慢性腎臓病の重症度評価に用いられます。
UA(尿酸)	男 女	3.6 2.3	7.0 7.0	食事で摂ったプリン体の代謝産物。高くなると痛風発作が起きやすくなります。
Glu(血糖)		70	109	体の大切なエネルギー源。食後に上昇し、インスリンの働きで元に戻ります。糖尿病の診断に有用です。
HbA1c(NGSP値)		4.6	6.2	過去1～2か月の平均血糖値を反映するため、血糖値が上手く調整されていたかを推測するのに有用です。
Fe (血清鉄)	男 女	54 48	200 154	酸素を組織へ運搬するヘモグロビンを構成する物質。貧血の原因の推測や状態・治療の効果を推測します。
TIBC (総鉄結合能)	男 女	253 246	365 410	
UIBC (不飽和鉄結合能)	男 女	104 108	259 325	
CRP		0.300以下		炎症や感染、組織の損傷があると高くなります。
RF(リウマトイド*因子)		10.0以下		関節リウマチの診断をします。
KL-6(シアル化糖鎖抗原)		0	499	間質性肺炎の診断や状態を判断します。
CEA CA19-9 CA15-3 AFP PIVKA-II シフラ Pro-GRP PSA				がんの有無や、がんがある場所を推測する指標。いくつかの項目を組み合わせて検査することで、がんの診断補助や診断の経過、治療の効果を推測します。 ※詳細は担当医にご確認ください。
PTHインタクト		13.0	53.0	血液中のカルシウム濃度を調節するホルモン。カルシウムの代謝異常がある場合、原因の推測に有用です。

TSH(甲状腺刺激ホルモン) FT3 FT4		0.35 1.71 0.70	4.94 3.71 1.48	甲状腺で作られるホルモン。 甲状腺機能の評価をします。
フェリチン	男 女	16.4 6.9	323.0 282.5	鉄の貯蔵状態を反映します。 貧血の原因の推測や状態・治療の効果を推測します。
BNP(ヒト脳性Na利尿ペプチド)		20以下		心臓から分泌されるホルモン。心不全の程度を推測します。
トロポニン精密		26.2以下		心臓の筋肉をつくる蛋白質の一つ。 CK-MBなどの結果と合わせて心筋梗塞の診断をします。
IRI (インスリン)		2.2	12.4	膵臓から分泌されるホルモンの一つ。 糖の代謝を調節し、血糖値を一定に保つ働きをします。
CPR (Cペプチド)		0.94	2.8	インスリンの分泌能評価をします。 インスリン投与時など、膵臓から分泌されたインスリンだけを測定できない場合などに有用です。
RPR TPHA		陰性		梅毒の感染を判断します。
HBsAg HBsAb		0.05未満 10未満		B型肝炎ウイルスの感染を判断します。
HCV		1.00未満		C型肝炎ウイルスの感染を判断します。
HIV		1.00未満		エイズウイルスの感染を判断します。
尿検査				
蛋白		(-)		腎臓の状態を推測します。 腎臓の障害や激しい運動などで高くなります。
糖		(-)		血糖の濃度が高くなると尿に糖が排出されます。 糖尿病の診断に有用です。
ケトン体		(-)		エネルギー源として、糖の代わりに脂肪が分解されたときにできる老廃物。糖尿病のコントロール状態などを推測します。
潜血		(-)		尿に血液が混ざっていないかを検査します 腎臓の炎症や結石、膀胱炎などで(+)になります。
ウロビリノーゲン ビリルビン		1.0未満 (-)		肝臓や胆道系の疾患、機能異常の有無を推測します。
赤血球 白血球 扁平上皮 など				尿に含まれる成分を機械や顕微鏡で調べ、数や形態の異常有無を検査します。

【受けて安心！定期検査】

豆知識のため不十分な説明です。

検査結果に一喜一憂せず、何か分からないことが
ありましたらご遠慮なく主治医にご相談ください。

